

# いいね暮らし

## 防災

検索

### ふるさとへようこそ



石蔵文信

## 自然な老いを受け入れる

で若作りされている方に、私は違和感を覚えます。先日の講演会で老人やじいさん、ばあさんなどと呼ばれると、いい気分ではないとの指摘がありました。確かに74歳までは自分が高齢者であるという気持ちの方が半分くらいです。そのために老人と呼ばれるには抵抗があるのかもしれない。

どうも「老」という字が差別的に感じるのかもしれない。しかし漢字の本場中国では、老は尊敬の意味を持ちます。先輩の王さんには老王と敬称で呼びますし、教師はそのものずばり老師です。

「老人」という呼称には本来、尊敬の念があったはずですが、逆に「若」は若輩者とか若気の至りとか言われるように、経験が足りない未熟者という意味があるのですが、最近では逆転している感です。

保育園のボランティアをしている私は、子供たちには「○○ちゃんのおじいちゃん」と呼ばれますが、当たり前のことなので気にはしません。親しい人は「お若いですね!」と気を遣ってくれますが、忸怩しない子供たちには親の一世代前はじいさん、ばあさんなのです。

私の体は確実に老化が進み、両眼とちえ、キーボード、え、ちよっとします。最近高齢相次いでいます。もバランスや腰ちているので、もしも。して抵抗せず、楽しんでみたら? 私もいつか思案中です。

## 命を守る 防災を「わがこと意識」で

地震や豪雨などの災害時に被害を最小限に抑え、命を守るためにはどうすればいいのか。過去の災害から日頃の危機管理を考えるシンポジウムが今月、大阪市立住まい情報センター(大阪市北区)で開かれ、防災心理学が専門の木村玲欧・兵庫県立大准教授が講演。「災害は身近に存在するリスク。健康や防犯と同じように防災も考えて」と訴え、「わがこと意識」を持って対策することの大切さを語った。(藤井沙織)



車を横転させるほどの猛烈な風が吹いた昨年の台風21号。大阪も、災害と無縁でないことを知らしめた。昨年9月4日夜、大阪市住之江区(鳥越瑞絵撮影)

## 身近な危険 知ることから

### 木村玲欧・兵庫県立大准教授が講演



防災意識を高めることの重要性を訴える木村玲欧(れお)准教授。大阪市北区の「大阪市立住まい情報センター」

大阪北部地震に西日本豪雨、台風21号、北海道胆振東部地震と、昨年、日本列島は多くの災害に見舞われた。木村さんは「命を脅かす災害が頻繁に起きる時代を生きていること」を認識する必要がある」と強調。災害時にはよく「想定外」という言葉が使われるが、「何も知らなければ、すべてが想定外。知ることで多くのことは想定内に収められます」。

身の回りの危険を知る手段の一つが、各自治体が住民に提供しているハザードマップ(被害予測地図)だ。しかし「じっくり見たことのある人は少ないでしょう」(木村さん)。西日本豪雨によって岡山県倉敷市の真備町で起こった浸水被害は、ハザードマップが示した浸水域とほぼ同じ範囲・規模だったが、50人以上が亡くなった。

構えて「空振り」OK 木村さんがハザードマップのチェックポイントとして挙げるのは、自宅▽サポーターが必要な高齢者のいる親類、近隣の家▽指定された避難所▽スーパーや病院などよく行く施設▽学校・会社。そして重要なのが、それらへの移動に使う道だ。過去の災害時には自宅から避難所に向かう途中で命を落としたケースもあり、「調べてみると避難所に行くより自宅の方が安全というところもあります」。

災害という非常時に、迅速、適切に行動するためには、適切な行動をするために、訓練が必要だ。近年、学校では緊急地震速報の警報音を抜き打ちで鳴らし、児童・生徒は直ちに机の下に潜り、教員は教室のドアを開けるなどの対応をとる訓練が行われている。

ところが、こうした訓練に真面目に取り組めない人がいる。木村さんが紹介した実際の訓練の動画や写真では一部、真剣に取り組む子供たちをたまた見ているだけの教員の姿が。「大人がやらない。『なんやかんや』と言われても、今まで生きてきたのだから、そんな簡単な死なない」と思い込んでしまっている」と木村さん。

だがそれは根拠のない希望的観測にすぎない。木村さんは「わがこと意識」を考え、対応力をあげていくことが必要。その場しのぎでは危機に対応できない」と訴えた。

### 大規模停電を経験した北海道民の声

- 手回しで充電可能な照明器具の必要性を感じた
- 冷蔵庫の中の物が腐った。レンジも使えないので、缶詰など加熱しなくても食べられる食料品を多めに買い、普段から食べて買い足していくことが必要だと感じた
- カセットコンロが役立った。ただ、カセットボンベを多めに買っておけばと後悔した
- ATM(現金自動預払機)が使えず、現金を引き出せなかった。普段はカード決済することが多いため家に一万円札しかなく、水を買に行ったが「おつりがない」と言われ、買うことができなかった

※木村玲欧(れお)准教授の講演から